

薬

薬（内服薬）が身体に入り、小腸から吸収されるのがほとんどで、次に血液に入ります。そのことを吸収といい、それから血液に運ばれ体内に分布され効き目を表わします。その後肝臓に運ばれ分解され胆汁や腎臓から尿となって排泄されます。

このことから、頭痛薬を飲んで頭痛の場所だけに薬が分布されるのではなく、頭痛薬の効果成分は全身に回りますが、頭痛の症状の関連部位に働き効果が表れ頭痛をとります。

このことは薬だからではなく、口から入る食品でも同じことが言えます。ただし最終的な働く場所、そして落ち着く場所が違うのです。

効き目の速い薬は、吸収が早いといえます。効いている時間が長いということは排泄が遅いということになります。それに薬を使う人の年齢や体重そして性別や体質によって薬の効果は当然違うことになります。

体の基礎を作る栄養剤や保健薬は長期連用可能に作られていますが、それも含め、治療薬的な薬を使うときは、はかかりつけの薬剤師に相談することをお勧めします。